

# 東北鉄道協会による「技術力共有化事業」 (技術・ノウハウの共有による技術継承と安全向上)

佐藤 啓一

東北鉄道協会 運輸・技術委員長  
(会津鉄道(株) 取締役運輸部長)



さとう けいいち

## 1. 東北地方の中小鉄道事業者が抱える課題

東北地方の中小鉄道事業者は、沿線人口の減少などに伴う経営の悪化などを背景として、①職員数の減少や高齢化による若手技術者の育成、②技術分野毎(軌道・構造物、車両、電気、運転など)に高い専門性を有する鉄道技術者の養成、③老朽化する設備・車両に対するメンテナンスなど、様々な課題を抱えています。特に中小鉄道事業者のような小さな所帯では、いつのまにか技術・技能・ノウハウが社内で蛸壺化し、新たな知見や幅広い視野を有する鉄道技術者を育てることが非常に困難な状況に陥っています。

こうした課題を事業者間の連携によって解決しようと、東北地方の中小民鉄・三セク鉄道などで構成する東北鉄道協会(会長：澤田長二郎 津軽鉄道社長)では、平成20年度より、①合同訓練や合同研修会の開催、②高価な検査機器や枯渇する鉄道部品の相互融通、③鉄道事業者間での業務の受委託の促進などを進める「技術力共有化事業」を推進

してきました(この取り組みは、平成21年10月、日本鉄道賞「地方鉄道技術連携賞」を受賞しました)。

## 2. 平成22年度における新たな事業展開

東北鉄道協会では、平成22年度の取り組みとして、従来から進めてきた「技術力共有化事業」を発展させ、①鉄道技術・安全アドバイザー制度、②鉄道安全ハイレベル研修、③新人運転士養成講座、④保線実技研修、⑤若手鉄道員“ヒヤリハット体験”報告会を柱とした新たな事業を展開することで、鉄道技術者の育成と次世代への技術継承、高度な技術力を有する組織体制づくりを推進しています(図1参照)。

これら一連の取り組みは、先進的な運輸の安全性向上のためのプロジェクトとして国土交通省による「運輸安全パイロット事業」に認定され、財政的な支援を得ながら進めています。以下、各々の取組みを簡単に紹介いたします。

### (1) 「鉄道技術・安全アドバイザー」制度の創設

全国的なアドバイザー制度としては、鉄道総研のレールアドバイザー制度が有名ですが、東北管内では、より日常的な相談・疑問を持ちかけることのできるアドバイザーを必要としていたことから、7月23日、協会に加盟する鉄道事業者に所属する鉄道技術者のうち、特に高度な技術力を有するベテラン技術者を、『構造物・軌道』、『車両』、『電気』および『運転』部門のアドバイザーおよびサブ・アドバイザーに任命し、各鉄道事業者への指導・助言を行う体制を整えました(図2、図3参照)。

既に本年8月、阿武隈急行で発生した信号トラブルに対し、アドバイザーによる指導・助言が行われており、引き続き、活発な活動が期待されています。



図1 平成22年度「技術力共有化事業」の全体像  
(5つの事業で構成されています)

## 鉄道技術・安全アドバイザー名簿(平成22年7月23日任命)

### シニア・アドバイザー(全体統括/技師長)

大内 孝也 IGRいわて銀河鉄道(株)取締役鉄道事業本部長

### アドバイザー

#### 《構造物・軌道部門》

及川 芳範 IGRいわて銀河鉄道(株)設備部施設課長

#### 《電気部門》

菊池 信雄 弘南鉄道(株)代表取締役専務

#### 《車両部門》

金野 淳一 三陸鉄道(株)運行本部長

#### 《運転部門》

三浦 邦夫 仙台空港鉄道(株)常務取締役業務部長

### サブ・アドバイザー

#### 《構造物・軌道部門》

押切 榮 山形鉄道(株)経営管理本部長兼工務部長

#### 《電気部門》

太田 弘 IGRいわて銀河鉄道(株)鉄道事業本部特命担当部長

#### 《車両部門》

永岡 圭 福島交通(株)鉄道部技術課長

大津 英夫 岩手開発鉄道(株)鉄道部次長

#### 《運転部門》

鈴木 博 山形鉄道(株)鉄道事業本部長兼運輸部長

図2 東北鉄道協会「鉄道技術・安全アドバイザー」名簿  
(各分野のベテラン鉄道技術者が名を連ねました)

## (2) 鉄道安全ハイレベル研修(安全統括管理者研修)

平成17年のJR西日本福知山線列車脱線事故の教訓を踏まえた鉄道事業法の改正により、鉄道事業者内における安全責任者として選任されている「安全統括管理者」を対象とした研修を、8月30日、仙台市内で開催しました。

第1部として、安全管理体制の構築に向けた内部監査に関する討議を、第2部として、早稲田大学の小松原明哲教授による『ヒューマンエラーの防止』と題した講演などを拝聴しました。なかでも第2部はJR東日本の安全担当者なども参加し、総勢120名程度の大規模な研修となり、講師と安全統括管理者との活発な意見交換も行われました。

## (3) 新人運転士養成講座

各鉄道事業者の若手運転士およびその候補者を対象とし、安全に対する強い責任感を持った運転士の養成を目的とした講座を9月29～30日に開催しました。

カリキュラムは、運転士の使命・心構え、安全確保における運転士の役割などに関する先輩方の講義に加え、JR東日本/総合研修センター『事故の歴史展示館』など(福島県白河市)において、過去の重大事故を踏まえた安全性向上の軌跡等を学びました(図4参照)。

まだ初々しい受講生達は終始緊張した面持ちで、自らの職責の重さを改めて痛感した様子でした。彼らが一人前の運転士として活躍してくれる時が楽しみです。

## (4) 保線実技研修

各鉄道事業者の保線担当者を対象とし、まくら木交換など保線作業を自ら体験実習することにより、保線技能の習得および適確な技術判断力の育成を図ることを目的とした



図3 平成22年7月23日「鉄道技術・安全アドバイザー」任命式  
(抱負を述べるシニア・アドバイザーの大内孝也氏/IGRいわて銀河鉄道(株))



図4 平成22年9月30日「新人運転士養成講座」  
(初々しい姿に、思わずエールを送りたくなくなります)

研修で、本年11月の開催に向けて、現在、関係者と企画・調整を進めています。

## (5) 若手鉄道員“ヒヤリハット体験”報告会

各鉄道事業者の若手職員を対象とし、自らのヒヤリハット体験を情報提供しあうことで課題共有を図るとともに、前述の「鉄道技術・安全アドバイザー」を交えた意見交換を行う予定で、来年1月頃の開催を予定しています。

## 3. 実施体制と取り組み状況

これら事業の実施にあたっては、東北鉄道協会 運輸・技術委員会各部長などをメンバーとし、鉄道総合技術研究所 鉄道技術推進センターの鈴木節雄センター長をオブザーバーとする「運輸安全パイロット事業連絡会」を設置し、企画検討、進捗管理、実施状況の確認などを行っています。

ここまで(本稿執筆時点)の取り組みでは、研修など受講者や関係者から高い評価を頂いており、当初予想以上の成果を挙げているものと認識しています。

この事業を契機として、東北鉄道協会加盟の各鉄道事業者が更に一致団結し、適確な技術の継承や安全・安定輸送に努め、地域住民の皆様の期待・信頼に応えることのできるよう、今まで以上に頑張っていきたいと考えています。RRR